

平成 26 年度市民モニターアンケート（第 1 回）集計結果

○【テーマ】「防災・災害情報の入手」について

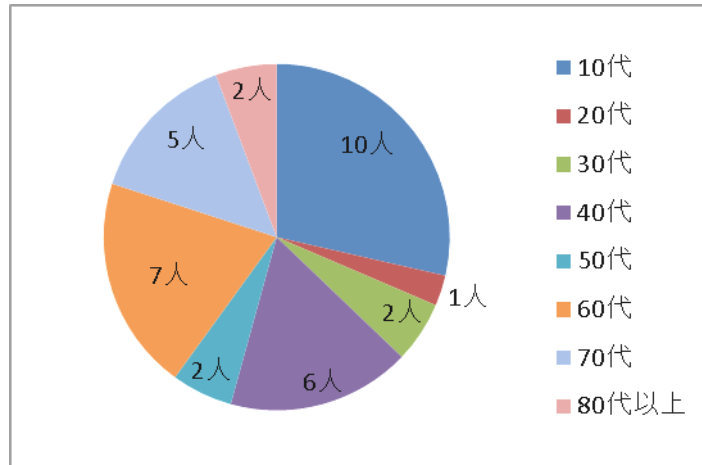
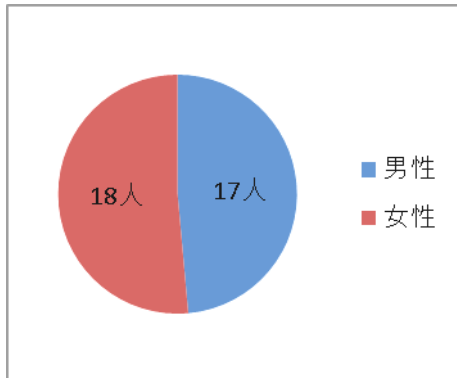
調査の目的

市では、市ホームページや防災行政無線などを利用して、防災・災害情報を発信しているが、地域によっては、防災行政無線放送が聞き取りにくいというご意見もあり、コミュニティ放送をはじめとする、様々な情報伝達の方法を検討している。

今回のアンケートで、市民が日頃、どのような方法で情報を入手し、また、どのような方法で防災・災害情報を入手したいかを調査し、緊急時に情報が素早く行き渡り、適切な対応が取れる体制づくりを目指したい。

調査の概要

- (1) 調査期間 平成26年7月25日 ～平成26年8月20日
※終了後も一定期間回収
- (2) モニター数 39人
- (3) 回答者数 35人 (回答率 89.7%)
- (4) 担当課 総務課



調査結果考察

【問1】

行政情報を得る手段としては、「広報えびの」からというのが最も多く、2番目に「市の防災行政無線放送」となっており、市のホームページやフェイスブックから情報を得ている人は少なく、市民モニターにおいては、インターネット環境を利用して情報を得ている人は少ないという結果になった。

【問2】

行政サービスで、どの分野に興味・関心があるかについては、特に多いのが「まちづくり・地域活動・ボランティア」、2番目に「健康・福祉」、3番目に「観光・商業」と続き、今回のアンケートに係る「災害・防災」については4番目という結果になっている。

【問3】

現在の災害・防災情報の入手手段としては、「携帯電話」が最も多く、2番目に「市の防災行政無線放送」、3番目に「テレビ」となっていて、リアルタイムに情報発信されているところからの入手が多い結果となった。

「宮崎県防災・防犯情報メールサービス」については4人しか選択がなく、市民の多くが知らないのではないかということが推察される。

【問4】

市の防災行政無線放送が聞こえるかという設問については、約8割の人が「よく内容が聞き取れる」「なんとか内容が聞き取れる」を選択しているが、残り2割の人が「内容がほとんど聞き取れない」としており、「全く聞こえない」を選択している人はいなかった。

【問5】

防災行政無線放送に対する意見では、高齢者の方や、放送担当者以外が放送を行った場合、屋内にいる時や大雨の時などに聞き取りにくい場合があるという意見があった。

また、緊急時に自動で放送される「全国瞬時警報システム(ジェイアラート)」で気象情報などの情報が昼夜関係なく、音声放送で流されることがあるが、この放送を不快に思われている方や、音声放送をその状況にあった内容にしてもらいたいという意見があった。

しかし、これについては全国共通のシステムであるため、本市だけが変更するということはできない。市民が身を守るための緊急情報を提供するシステムであるため、ご理解をいただきたい。

【問6】

「えびの市独自のラジオ放送局(コミュニティ放送局)」の設置については、回答者の6割が「積極的に設置すべき」「設置しても良い」を選択しているが、残りの4割は「設置の必要はない」「わからない」としている。

【問7】

自由意見については、聴覚や身体に障害を持った方々への対応の必要性や、日頃からの近隣での声かけ、いざという時に正しい判断ができるような訓練を望む意見などが寄せられた。

調査結果まとめ

防災・災害情報の入手については、「市の防災行政無線放送」が 2 番目に多い結果となっているが、場所や悪天候時によっては放送が聞き取りにくいということや、また、高齢者や障がい者の方たちに情報が伝わらない場合があるのではという不安を感じている意見が見られた。

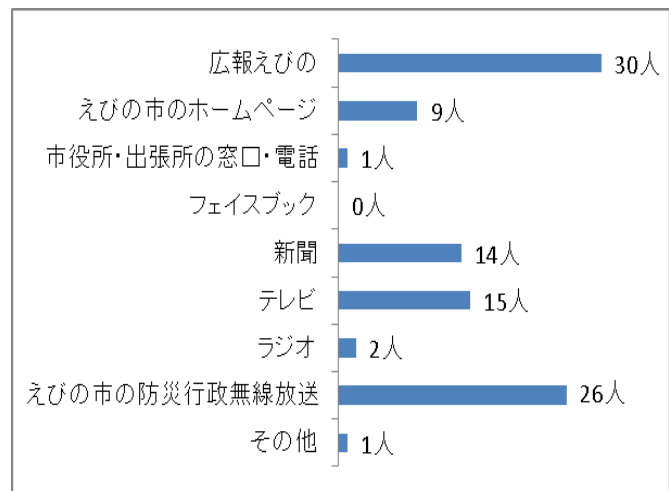
今後は、情報の伝達手段の検討では一般の方はもとより、地域や福祉団体等と連携した取組が必要である。

調査結果

1. 市役所からの行政情報を得る手段をお伺いします。

問 1 日頃、市からの行政情報を知るための手段とされているものは次のどれですか。(複数回答可)

選択肢	回答数
1 広報えびの	30
2 えびの市のホームページ	9
3 市役所・出張所の窓口・電話	1
4 フェイスブック	0
5 新聞	14
6 テレビ	15
7 ラジオ	2
8 えびの市の防災行政無線放送	26
9 その他	1
計	98



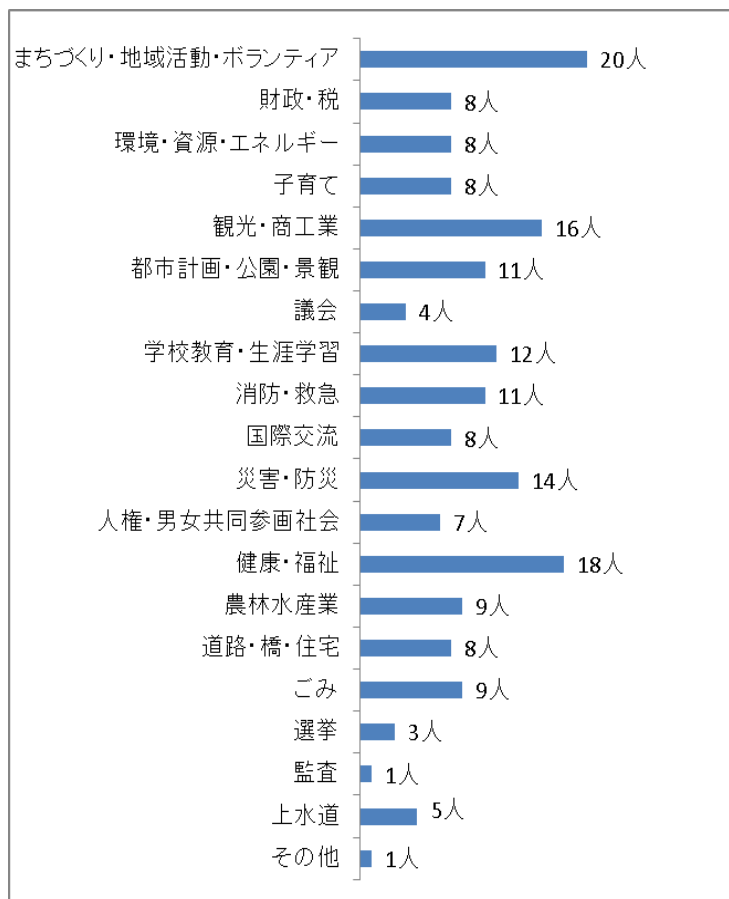
○ その他の内容

・市議会だよりや市内新聞社

2. 関心のある分野について、お伺いします。

問2 市では、さまざまな行政サービスを行っていますが、どのような分野に興味・関心がありますか。(複数回答可)

選択肢	回答数
1 まちづくり・地域活動・ボランティア	20
2 財政・税	8
3 環境・資源・エネルギー	8
4 子育て	8
5 観光・商工業	16
6 都市計画・公園・景観	11
7 議会	4
8 学校教育・生涯学習	12
9 消防・救急	11
10 国際交流	8
11 災害・防災	14
12 人権・男女共同参画社会	7
13 健康・福祉	18
14 農林水産業	9
15 道路・橋・住宅	8
16 ごみ	9
17 選挙	3
18 監査	1
19 上水道	5
20 その他	1
計	181



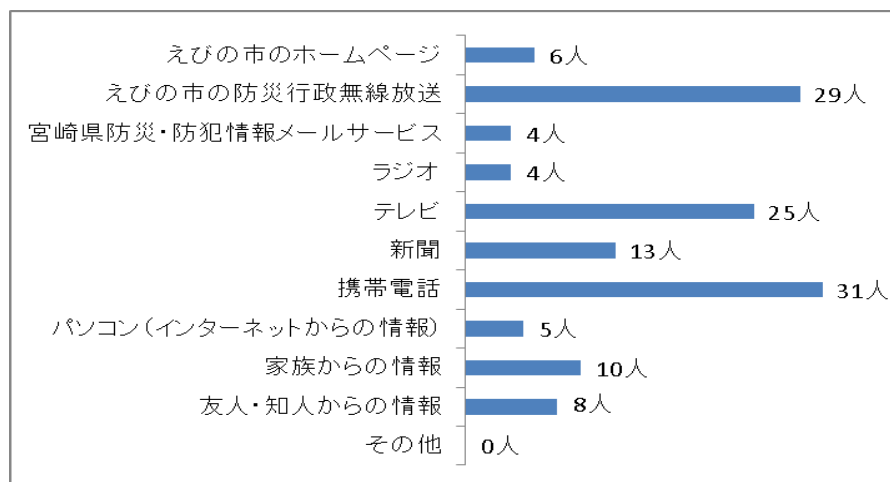
○ その他の内容

・よくわからない

3. 防災・災害情報の入手方法について、お伺いします。

問3 普段、災害・防災情報をどのような手段で入手していらっしゃいますか。(複数回答可)

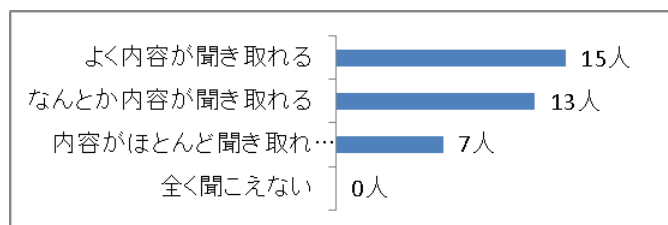
選択肢	回答数
1 えびの市のホームページ	6
2 えびの市の防災行政無線放送	29
3 宮崎県防災・防犯情報メールサービス	4
4 ラジオ	4
5 テレビ	25
6 新聞	13
7 携帯電話	31
8 パソコン(インターネットからの情報)	5
9 家族からの情報	10
10 友人・知人からの情報	8
11 その他	0
計	135



4. 防災行政無線放送について、お伺いします。

問4 市から災害などの緊急情報を伝える場合、防災行政無線放送でお知らせしていますが、あなたのお住まいの地域では放送内容が聞き取れますか。

選択肢	回答数
1 よく内容が聞き取れる	15
2 なんとか内容が聞き取れる	13
3 内容がほとんど聞き取れない	7
4 全く聞こえない	0
計	35



問5 その他、防災行政無線放送について、ご意見やご提案などがあれば、自由にご記入ください。

・速度はいいので、もっとはっきり一語一語丁寧に話していただければ、もっと聞き取りやすいかと思います。(10代 女性)

・特にありません。今のままでいいと思います。(10代 男性)

・加久藤 松原に住んでいますが、聞き取りにくいことが多い。(60代 女性)

・市防災無線について、最近は大いぶ少なくなりましたが、以前、県の防災無線放送だと思いますが、ゆったりとした、少し市民を馬鹿にしたような話方で放送がありますが、市民の皆様は放送があれば緊張を保って聞き入ると思いますが、何か気の抜けるような話で、非常識を超えた話し方は許せません。是非中止を強く求めます。改善を期待します。(60代 男性)

・家の中や建物の中に入っていると聞き取りづらい。放送スピーカーが近くに2ヶ所あると、音声为重なり合って聞き取りづらい場合がある。(60代 男性)

・高齢者には難聴の人がいるので、無線放送が聞き取れない。無線放送塔を増設できないか。(80代 男性)

・放送塔をもう少し高くして、メガフォン(?)を長くすると遠くまで聞こえるのではないのでしょうか。台風や雷対策も考えなければならぬし、難しい問題ですね。(70代 女性)

・時には聞き取れないこともあります。(60代 女性)

・1家に1台の無線受器は無理でも、地域での連絡網が必要であり、かつ訓練もたえず必要と思う。(60代 女性)

・大溝原地区には無線放送の塔が1つしかなく、自宅から直線300mくらいで、風向きによっては全然聞こえないときがある。(60代 男性)

・例えば、大雨の時に放送は聞こえない。予防的効果はあっても、本番はあまり役立たない。(40代 男性)

・時間外の放送は、職員以外の守衛さんが担当されていると思われませんが、不慣れのため聞き取りにくい面が多々あります。もう少し訓練を実施して、市民が安心して聞き取れるようお願いいたします。(80代 男)

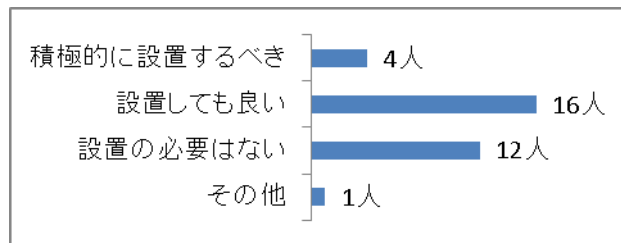
性)

・例えば竜巻情報ですが、夜 10 時過ぎの放送で「空の様子を確認して…」というような内容がありました。夜、空を確認することはできません。マニュアル的でなく、その場にあった放送をお願いします。(40 代女性)

問 6 市から災害などの緊急情報を伝える手段の 1 つとして、えびの市独自のラジオ放送局（コミュニティ放送局）の設置も検討しています。このことについて、どう思われますか。

ただし、ラジオ放送局を設置する場合、市の財政的支援が必要になると考えられます。

選択肢	回答数
1 積極的に設置すべき	4
2 設置しても良い	16
3 設置の必要はない	12
4 その他	1
計	33



○ 選択の理由

【積極的に設置すべき】

・地域に密着した情報をすぐ知ることができるから。

・一過性の台風情報ならともかく、かつてのえびの群発地震など、何ヶ月にも及ぶ災害に対応するのなら、ローカル局の開局は必須要件です。私は東京での定年後、帰省するまでの 10 年間、静岡県熱海市に仮寓（仮住まい）しましたが、同地のFM局は民放とはいえ、隣町の湯河原町当局と共同でスポンサー支援。また、ラジオ自体は昔のマッチ箱サイズで、電源は単 3 電池 1 個だけ。スペック（性能）もほぼ聴取地域限定の超コンパクト型として機能を絞り込んで原価低減に成功、わずか 500 円で頒布（広く配ること）していました。えびの市がコミュニティ局を開局するなら、小林市または西諸で一带運営するのも一法かと思います。熱海・湯河原コミュニティ局のラジオ単体の性能はまずまずで、耐久性もあり、帰省するまでの間は何ら支障なく聴取できました。ちなみに、熱海市は人口約 4 万人、湯河原町は 2 万 5000 人、合計 6 万 5000 人なので、小林市・えびの市の合計とほぼ同規模。両市で共同運営する場合、双方の庁舎内のメインスタジオのほか、道の駅などにサテライトスタジオを設置すれば市民だけでなく、買い物に立ち寄り一般の県外観光客の関心も呼び、相乗効果が狙えそうです。

・高齢者が多く聞き取りにくいいため、早急な設置を望みます。耳の聞こえにくい方にどう伝えるのかも検討して欲しい。

【設置しても良い】

- ・ラジオを利用する機会が多いので設置しても良いと思った。
- ・設置しても良いと思うが、放送もしているし、金銭的に厳しくはないのかと疑問に思ったから。
- ・設置する方が、より多くの人たちに、えびの市のことを知ってもらえると思う。さまざまなコーナーを作れば、若い年代(10代、20代)も関心を持ってくれると思うから。
- ・簡単に、えびの市の情報を知ることができるから。
- ・ラジオだと停電に関係なく聞けるので、より早く情報を知ることができるから。
- ・最近ラジオを聴く習慣が昔に比べて極端に少なくなっているのは事実です。車の運転中も聞くことがまれです。家の中においてもラジオがどこにいったか探すのも一苦勞です。まずは習慣づけが必要か。
- ・財政的に余裕があれば設置しても良いが、現状でも不便は感じていない。
- ・緊急の時には必要
- ・住民の安心度が向上する。外部からの信頼が増し、定住に結びつく。
- ・防災行政無線放送が聞こえにくいところ、天気の悪い日など、室内にいる時に FM 放送局があったらいい。
- ・地域の細かな情報が即座に聞き取れる。
- ・放送局を1日まわすのは大変だと思うので、例えば、1日 7時、12時、6時の各10分放送、プラス緊急時放送するようにしてもいいのではないのでしょうか。
- ・防災無線が聞き取れないときに必要だと思うから。

【設置の必要はない】

- ・若い人はラジオを聞かないと思う。
- ・人口が少ないし、最初は新鮮でいいが、月日がたつとマンネリ化しそう。
- ・ラジオを持っていない人もいるから。

- ・ラジオを使う機会がない。
- ・今の災害無線放送で良いと思います。設置には多大の経費と家庭での配線など、あまり利点が見られません。他の地区で実際見て聞いて感じました。
- ・市の財政的支援が必要となるのであれば、なくてよいと考えます。
- ・テレビ、ラジオ、防災無線放送で十分に緊急情報は伝わる。
- ・確かに細かい情報がわかり、いい面がありますが…。防災放送が充実しているし、資金もいりますので。
- ・現在、FM放送で時々、えびの市のことが聴かれるのではないですか。財政的支援が必要になるということですが、今でも財政難なのにどうでしょうか。
- ・普段、ラジオを聴く習慣が無いし、わざわざFMラジオを買ってまでは聞かないと思う。
- ・FMラジオは電波が悪いから、あまり聞かない。財政支援をかけてまで発信する情報がないように思う。

【その他】

- ・わからない。聞こえは良いが…。

6. 最後に、お伺いします。

問7 「防災、災害情報の入手」について、ご意見やご提案があれば、自由にご記入ください。

- ・今のままでいいと思います。(10代 男性)
- ・市の防災放送やハザードマップなどをもっと活用すれば、安心して生活を送ることができる。(10代 男性)
- ・ラジオ放送局設置の前に、市民全員が情報をすばやく入手するためには、昔のように有線放送にて知れた方がいいのでは。独居の高齢者等は、わざわざ放送局のラジオを聞くことはないと思う。財政的にも困難な面を選ぶ必要はないと考えます。若い方はホームページ、パソコンと色々ありますが、これらのない高齢者の方のことも考えれば、昔みたいに1件に1戸ずつのラジオがあり、有線で情報を提供した方がいいのでは。また、聴覚、障害者の方に対する行政の対応も1番考えておかねばならないと思

ます。独居老人も一緒ですが、今後の課題として提案します。(50代 女性)

・テレビ放送中にテロップを流すのがわかりやすい。ラジオや市のスピーカー放送等、雨の強い時はなかなか聞き取りづらい。(60代 男性)

・テレビ放送や無線放送に頼っている現状であり、特にコミュニティ放送を積極的に望んでいるわけではない。(80代 男性)

・テレビやラジオ放送を見聞きしていると早くて確かな情報がわかります。えびの市の防災放送は親切、丁寧でありがたいです。(70代 女性)

・災害時の場合、情報を主に頼りにされると思います。しかし、自己判断が最も望ましいと思います。他力ではなく自力の訓練のやり方など指導して欲しい。(70代 女性)

・防災行政無線放送でも良いから、前もっての連絡をして欲しい。(60代 男性)

・日頃からの近隣の声かけで、何の情報も届かない人がいないように、地域での話し合いを進める。自治会未加入者の情報の入手法もどうするのか検討ください。(60代 女性)

・テレビ、ラジオと協力して発信してもらうのが良い。(40代 男性)

・防災情報はなるべく早く知りたいので、ホームページなど早目の情報対応をお願いします。(40代 女性)